

「やっぱり中国人も日本人も変わらないよ！」

ターン有加里ジェシカ

正直に言って、私は中国のことをほとんど知りません。長い間、中国という国に接点を持ったことがありませんでした。強いて言うならば、ニュースからの情報に加えて、理由もなく中国を嫌う祖母からの意見が私にとっての中国との接点でした。そういった状況が一転したのは大学に入ってからです。中国語の響きに惹かれて大学で中国語を勉強し始め、クラスでトップの成績を修めるほど毎日中国語を暗唱しました。まだ中国語を話せる段階ではないけれど、中国に行って実際の中国人の生活に触れてみたい！と思い、大学二年の夏に中国旅行を計画しました。しかしお金が足りず行くことができませんでした。もっと前から用意しておけばよかったと後悔しましたが、仕方ありません。そんなとき、偶然「リードアジア」という日中学生交流連盟によるプログラムを紹介してもらいました。

今年のリードアジアでは、9日間、日本人学生と中国人学生が東京に泊まり込んで様々な企業を訪問したり、ディスカッションしたり、文化交流したりしました。私にとって一番魅力的だったのが、日本に初めて来る中国人学生と関わるといふ点です。私が日本で知り合った中国人は皆、日本語が流暢で日本の生活にも慣れていますが、本人たちがよく言っていますが、彼らの考え方や行動は「ジャパナイズ」されています。一方で、初来日する中国人学生は日本を中国からしか見たことがありません。そういった学生と交流することで、中国に実際に行けなくても、少しは「ジャパナイズ」されていない中国を知る良い機会になるのではないかと考えました。

中国を毛嫌いする祖母にはプログラムの参加を反対されました。しかし、祖母が何と言おうと私は参加する気満々で参加費ももう払っていました。少しでも祖母を説得するにはどうしたらよいかと知恵を絞った結果、「中国人も日本人もそれほど変わらないから大丈夫」という言葉が出てきましたが、そのような理由で祖母を説得できるはずはないし、正直なところ、私自身も「中国人も日本人もそれほど変わらない」は嘘かもしれないと思いました。多くの日本人、特に私の祖母は、「日本人は大人しいが、中国人はうるさい」や、「日本人は他人を思いやるけれど、中国人は自分本位だ」という風に日本人と中国人を違うものとして認識しているように思えます。私もそういう認識を持っていました。—リードアジアに参加するまでは。

リードアジアでの9日間、中国人学生と本当に仲良くなり、くだらない話から日中関係に関する堅い話まで色々話し合いました。その中で日本と中国の文化の違いに驚くことが何回かありましたが、一番驚いたのは、中国ではむやみに「ありがとう」を言わないと教えてもらった時のことです。それを聞いた瞬間は「日本人は他人を思いやるけれど、中国人は自分本位だ」というプログラム参加前に抱いていたイメージが脳裏に浮かびました。しかしよく話を聞いてみると、相手を敬遠していると取られかねないから、親しい相手にはむやみに「ありがとう」を言わないのだそうです。自己中心的で感謝する気さえ起きないからなどというわけではなく、むしろ、他人を思いやるからなのです。理由を聞いて「中国人は自分本位だ」などという根拠もないイメージを抱いていた自分を大変恥ずかしく思いました。結局「中国人も日本人もそれほど変わらない」というのは本当でした。どちらも同じように他人を思いやるのです。もちろん、中国人学生と話していると考え方が少し違うなと思うことはありましたが、たくさんの中国人学生と話す中で気付いたのは、日本人が色々いれば中国人も色々いるから、「日本人」、「中国人」という枠組みでお互いを捉えることはばかばかしいということです。充実した9日間を終え、家に帰って真っ先に祖母に向かって発した言葉は「ただいま」ではなく、「やっぱり中国人も日本人も変わらないよ！」でした。